

海邦養秀ネットワーク構築事業実行委員会

◎ 沖縄県知事公室交流推進課

平成25年度
海邦養秀ネットワーク構築事業
報告書



はじめに



海邦養秀ネットワーク構築事業実行委員会会長 沖縄県知事公室参事監 古波蔵 健

ウチナーンチュは20世紀初頭から半ばにかけて、「我らが家は五大州」の気概のもと、南北アメリカ大陸を中心に世界各地へ雄飛しました。海を渡った移住者とその子弟は各国で活躍しており、今でも沖縄とのつながりは深く、かけがえのないものとなっています。

そこで、沖縄県では「21世紀ビジョン」において「世界に開かれた交流と共生の島」を掲げ、ビジョンの実現に向けて、世界のウチナーンチュとのネットワークの強化、特に次世代のネットワークを担う若者の育成に力を入れて取り組んでいるところです。

「海邦養秀ネットワーク構築事業」は、その若者育成の一環として本県の国際交流における重要事業に位置付け、県内若者を海外県系人社会へホームステイ派遣しております。

当事業は、2006年10月に開催された「第4回世界のウチナーンチュ大会」の海外県人会・民間大使会議をきっかけにスタートして今年で7年目を迎え、これまで79名の若者を沖縄から海外県系人社会に送り出してきました。また、ウチナーンチュ大会開催年等には海外県系人子弟を沖縄に招聘し、こちらは18名の若者をホームステイで受け入れるなど、沖縄と海外県系人社会の双方向交流を推進してきた実績があります。

今年度は、ペルー沖縄県人会の全面的な御支援、御協力の下、沖縄の高校生・大学生7名を8月14日から28日の15日間にかけてペルー共和国にホームステイ派遣いたしました。参加者からは、沖縄とは異なるペルーの文化に触れ、ウチナーンチュ移民の歴史を学ぶことで大いに刺激を受

け、より深くウチナーンチュの文化、精神に触れることができたと報告がありました。また、ホストファミリーの皆様には、派遣した若者達を血のつながった親戚のように受け入れていただいたと聞いております。沖縄に戻ってから、参加者達が「もうひとつの家族が地球の裏側にできた!」と口々に話す姿に触れ、沖縄とペルーの交流がより深まったという実感を持っております。

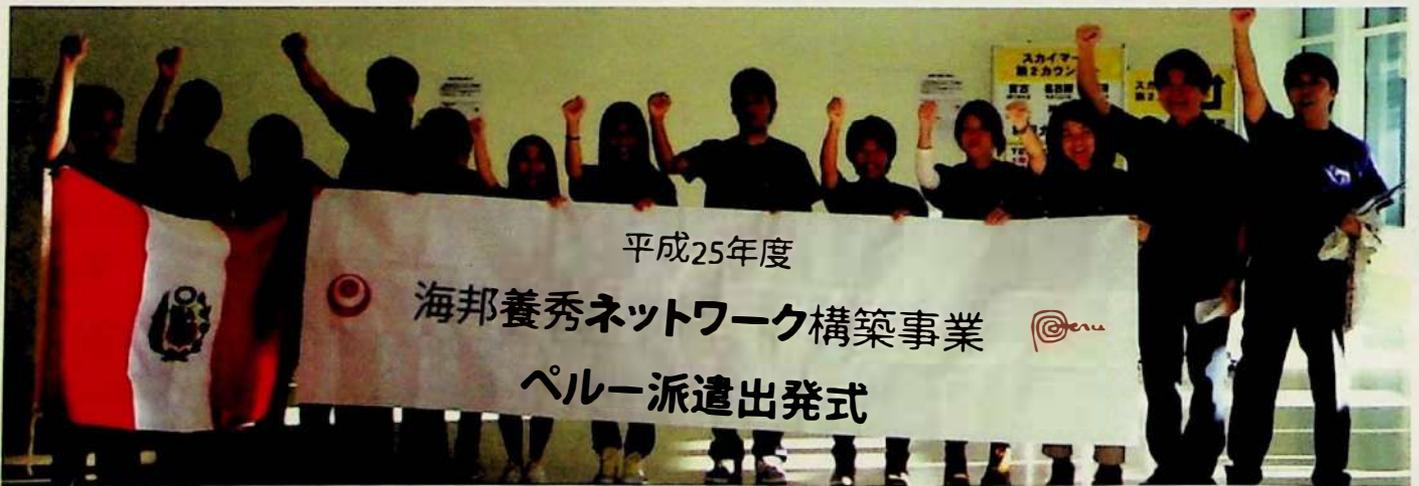
事業名にある「海邦養秀」とは、琉球王国に存在した最高学府、「国学」に掲げられた扁額に刻まれた言葉ですが、海に囲まれた島から優秀な人材を輩出したいという当時の尚温王の思いが込められています。ウチナーネットワークの次世代の担い手となりうる、国際感覚に優れ、沖縄を深く理解した若者を育成するという本事業の目標は、この言葉の精神と軌を一にしており、その実現に向けて今後とも取り組んでまいりたいと考えております。

参加者にとって、ペルーにおけるもうひとつの「沖縄」で過ごしたことは、世界中に広がるウチナーネットワークを実感し、母県・沖縄を深く見つめ直す貴重な体験となったことを確信しており、これを糧にして彼等が将来国際的に活躍する人材へと成長することを期待しています。

今回、貴重な経験を沖縄の若者に与えて下さったペルー沖縄県人会、ホストファミリー、並びに現地関係者の皆様にご心より感謝を申し上げますとともに、関係者の皆様には、県の国際交流・協力事業の推進に尚一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。はじめのあいさつといたします。

目次

- ・ はじめに 1
- ・ 参加者 3
- ・ ホストファミリー 4
- ・ 事業のスケジュール 5
- ・ ホームステイツアー日程 6
- ・ 本プログラムを通して、参加者が学んだ事 7
- ・ 現地活動日誌 8
- ・ 主な活動について 13
- ・ ホームステイ感想 18
- ・ 参加者アンケート(派遣前) 25
- ・ 参加者アンケート(派遣後) 26
- ・ 編集後記 28



出発式



学校訪問



噴水公園



帰国の様子

参加者

米城 沙織
琉球大学 3年生

パウカル ルミ
沖縄キリスト教学院大学 4年生

宮城 瑞恵
沖縄県立コザ高校 2年生



荻野 なつれ
沖縄県立向陽高校 2年生

川畑 智華
琉球大学 4年生

村松 燿子
沖縄県立泊高校 1年生

島袋 りおな
沖縄県立陽明高校 1年生

引率者



当山 樋口 アルトゥーロ
沖縄県国際交流員



横山 貴彦
沖縄県知事公室 交流推進課



金城 さつき
NPO法人沖縄NGOセンター

ホストファミリー



川畑智華・オオシロファミリー



島袋りおな・ミヤシロファミリー



村松耀子・ガナハファミリー



米城沙織・イシキファミリー



宮城瑞恵・ナカマファミリー



横山貴彦・ウエズファミリー



荻野なつれ・ウエハラファミリー



金城さつき・ナガハマファミリー



パウカル ルミ・マエソノファミリー



当山 樋口 アルトゥーロ・トウヤマファミリー

事業のスケジュール

日程	内容	場所・その他
5月8日(水)	参加者募集開始	
6月5日(水)	応募〆切(33名応募)	
6月12日(水)・13日(木)	面接	沖縄県庁
6月14日(金)	参加者決定	沖縄県庁

派遣までの日程確認、参加者同士がうちとけ、目標・目的を高めるため、以下の研修を行った。

6月22日(土) 13:00~17:00	第一回オリエンテーション 内 容:保護者説明会、旅行社(株式会社国際旅行社)からの説明、沖縄移民の学び、課題設定(「伝えたい沖縄」について)、次回までの課題・準備事項確認 配布資料:研修資料(保護者用、参加者用) 【事業概要、ホームステイ日程、沖縄移民について、派遣地情報、参加者一等】	JICA沖縄国際センター セミナールーム311
7月13日(土) 10:00~17:00	第二回オリエンテーション 内 容:現地日系社会についての、語学研修、在沖日系人に学ぶワークショップ、発表準備(伝えたい沖縄のこと)、課題設定(現地調査テーマを決める) 講 師:普久原 サオリさん(ワークショップ担当)	JICA沖縄国際センター 多目的ルーム
8月10日(土) 13:00~16:00	第三回オリエンテーション 内 容:救急救命法について、ペルー文化について、スケジュール・持ち物確認、「伝えたい沖縄」の準備、注意事項確認。 講 師:上原 有美子さん(命手) ウリベ 知念 クラウディアさん(平成25年度沖縄県費留学生・ペルー出身) 配布資料:活動日誌 【緊急連絡網、ホームステイ日程、日誌、ホームステイ心構え、スペイン語会話帳、持ち物チェック表、調べ学習記録ページ等】	JICA沖縄国際センター セミナールーム311

8月14日(水)~28日(水)

ホームステイツアー

(次ページに詳細)

9月28日(土)	事後研修(OB/OG交流会、報告会) 午前中は過去の参加者との交流会(本事業の振り返り)を行い、午後は参加者による本事業成果発表を行った。 9:00~10:00最終準備、10:00~12:00交流会、13:00~16:00報告会・懇親会 参加者:ホームステイ参加者、参加者家族、学校教員、留学生、OB・OG、本事業実行委員会	JICA沖縄国際センター 多目的ルーム
----------	--	---------------------

ホームステイツアー日程

ツアーコーディネートしてくださったペルー沖縄県人会の皆様
 ルイス 高原さん(県人会会長)
 カリナ 小波津さん(県人会研修部長)
 カルロス 金城さん(県人会事務局)
 エルケ 当山さん(県人会事務局)
 ノルマ シモヒラさん(県人会事務局)
 フリオ 高原さん(県人会会員)

1日目:8月14日(水)

06:30 那覇空港集合
 07:00-07:15 出発式
 08:05 那覇発 10:25 羽田空港着
 羽田空港⇒成田空港 16:00 成田空港発
 14:15 ヒューストン着 15:50 ヒューストン発
 22:20 ペルー・リマ着
 各ホームステイ先へ

2日目:8月15日(木)

ウェルカムパーティに向けての準備
 県人会で昼食
 ウェルカムパーティ
 ゆいまーるフェスティバルに向けての準備

3日目:8月16日(金)

①ラ・ユニオン学校を見学。
 案内:後藤 フアンさん(校長)
 日秘文化会館の設備
 ②移民博物館等を訪問。
 案内:我那覇 宗孝さん(県人会副会長)
 ゆいまーるフェスティバル準備

4日目:8月17日(土)

ホストファミリーと過ごす

5日目:8月18日(日)

(午前)ゆいまーるフェスティバルに向けての準備
 ③(午後)ゆいまーるフェスティバル参加

6日目:8月19日(月)

Parque de las leyendas(動物園)訪問
 ④AMDA活動現場視察(カラバイーヨ地区)。
 案内:渡口 ルイス 宏文(AMDA沖縄)
 ホセ ヤマニハさん(AMDAペルー)

7日目:8月20日(火)

⑤カニエテ(日本移民発祥の地)訪問
 【グスクマ氏経営ビスコ工場、慈恩寺、港】
 振返り ※イカ市泊
 引率:ヘイジ 平良さん(2011年沖縄県費留学生)
 ハルミ 比嘉さん(2009年県沖縄費留学生)

8日目:8月21日(水)

ナスカの地上絵観光
 引率:7日と同上

9日目:8月22日(木)

⑥移住者の体験談(1世・当山津代さん、2世・仲田幸弘さん)

10日目:8月23日(金)

⑦ミヤサト氏経営ガラス工場見学
 民芸品市場
 リマ旧市街地観光
 Paseo de las aguas(噴水公園)訪問

11日目:8月24日(土)

フォルクローレ(伝統的な踊り)体験講座。
 講師:ロベルト 比嘉さん
 さよならパーティに向けての準備

12日目:8月25日(日)

スポーツ交流
 県人会館さよならパーティ(成果発表、ペルー県人会のメッセージ、余興)

13日目:8月26日(月)

ホストファミリーと過ごす
 17:00 日秘文化会館
 19:00 搭乗手続き、荷物預け、出国審査
 22:00 リマ発

14日目:8月27日(火)

07:30 ニューヨーク着 10:55 ニューヨーク発

15日目:8月28日(水)

13:55 成田着 17:55 成田発 20:55 那覇着



事後研修のOB/OG交流会、報告会

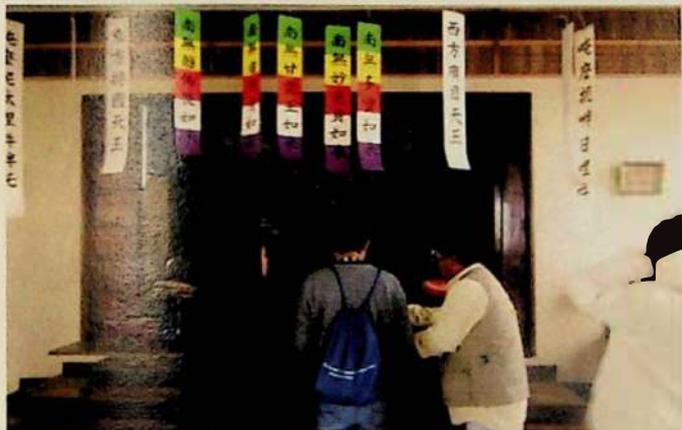


JICAフェスタでの展示

本プログラムを通して、 参加者が学んだこと

ペルーで受け継がれている 沖縄の文化・習慣。

参加者の多くは、滞在中、多くの沖縄文化を目にしました。沖縄の歌、三線、エイサー、ウチナーグチ、沖縄料理、仏壇や旧暦で迎えるお盆。これまで身近にあったものでありますが、遠く離れたペルーで触れ、ペルーにいながらにして、沖縄を感じた参加者たちは、沖縄や自分たちの暮らし・文化を考える機会となりました。



慈恩寺

移民の歴史

移民史料館訪問、1世・2世による体験談、そしてホストファミリーとすすむ中で、ペルーへの沖縄移民の話をたくさん聞いた参加者たち。知らなかった歴史を学びました。直接お会いし、話を聞くことができ、本で学ぶ以上のことを得られたようです。



移民史料館

沖縄県系人・日系人の活躍

移民の歴史を学ぶことに加え、沖縄県系人の働く会社を訪問させていただきました。

ミヤサトガラス工場、ペルーのお酒・ビスコ工場、ペルー国内で幅広く展開するチキン料理のお店を訪問しました。また、日系人の経営する学校も訪問。多方面で沖縄県系人(日系人)が活躍していることを目の当たりにしました。移民した頃、戦中・戦後の厳しい時代を乗り越えてきた日系人の精神には多くのことを学びました。

また、加えて、ペルーの社会問題や文化にも触れることができました。ペルーの社会課題を考えるだけでなく、貧困や搾取の問題が沖縄にも存在するののかということも考える機会となりました。

ペルーのウチナーンチュの皆さんと交流を深めながら、沖縄移民の歴史を理解し、沖縄・ペルーについて学び、考える機会となりました。



ミヤサト氏経営ガラス工場



グスクマ氏経営ビスコ工場

現地活動日誌

・8月14日/15日・川畑 智華

まず飛行機について。

初日は飛行機に乗った時間の方が長かったです…。とてもとても長くて、かなりくたびれました…!

でも機内食もまあまあ美味しく、私にとっては初めての体験でとても楽しく感じました。

ペルーに着いた時、入国審査上で思った以上に時間がかかってしまい、県人会の方々を三時間も待たせてしまうというハプニングもありました…(10人中私だけ、再審査にもなりました…)

ですが、県人会の方々が【めんそーれ】と書かれた横断幕を掲げて出迎えてくださり、私達の旅の疲れも一気に吹き飛びました!

その後は集合写真を取って、各ホームステイ先に別れて行きました。ちなみに気候は15℃!肌寒い感じがします。

私のお邪魔した御宅は、大城さんのお家!

大きくって広い!とても綺麗なお家です。子供たちの部屋にもそれぞれバスタイレがついています!うちにもそのシステム導入したいです。

そして今日は県人会のウェルカムパーティがあり、私達のそれぞれのテーマも、おばあちゃんおじいちゃんの前で発表しました。まぶいぐみ、ウケてました!笑

その後は沖縄そばや沖縄料理、ペルーのトウモロコシを使ったペビアンという料理などを頂きました!♡

Me encanta Pepian!!!



ペルー、リマ市空港

・8月16日・米城 沙織

今日は、8時から活動を開始し、アルトゥーロが去年まで働いていたラ・ウニオン学校を見学しました。10名~25名程の少人数でレベル別に学校の授業を行っていて、見学した小学1・2年の授業は体を動かしながら、日本語を覚えたり、スーパー「よ」の授業は、とても楽しかったです。壁の書かれていたいろいろな日本語と4つの色分けの際でのそれぞれについている時代の名前はイイネ!でした。



ラ・ウニオン学校

日秘文化会館では、耀子パパの我那覇さんの丁寧な説明を受け、実際の写真や展示品などが、たくさんあったので、とても勉強になりました。

当時からある、沖縄のユイマールの心に沖縄の精神を感じました。我那覇さん Gracias!!!!帰国後の報告書頑張ります。会館の日本食のレストランの日本料理はとってもおいしかったです!

午後は、ユイマールフェスティバルに向けての準備をしました。昨日に比べてとてもまとまっていたので、18日の本番上手に歌えるように頑張ります!!

明日は、ホームステイ先と一日過ごすのでとても楽しみ!

ドルをソルに変え、日本料理を食べました!!様々な種類がメニューにならなかったので、日本に戻ったような感覚でした。とってもおいしかったです。

・8月17日・島袋 りおな

今日は大城さんファミリーと、ともかさんとさおりさんと私でお出かけに行きました!最初はアンキョロヒア博物館に行きました。そこではペルーの歴史についてガイドさんからお話を聞きながらまわりました。本物の武器とか衣装とかを見てとても良い勉強になりました。

お昼前のおやつは130年の老舗のお店ケイロロというお店で食べました。パパレイエナという牛肉とオリーブを炒めて



リマ旧市街地

じゃがいもで包んだ料理と、タマルというトウモロコシの料理とカウカウというじゃがいもと豚の内臓を炒めた料理を食べました。全部美味しかったです。特にカウカウは沖縄にも豚の内臓を使った料理とかがあるのでかなり沖縄を感じました(笑) そして、一旦大城さんの家に行って大城ババを待ちました。大城ファミリーで飼ってる犬のミカちゃんがすごく可愛かったです。

そして、民芸品市場のインカマーケットに行きました。ともかさんも、さおりさんも、私もとても良い買い物をする事が出来てテンションが上がりました。途中で宮城ファンさんとマリさんも合流して一緒にまわりました。通訳とかもして頂いてとても助かりました。次はカミノデインカというデパートに行きまして三人ともネイルや髪セットをしてもらいました、(▽、°)ノ皆可愛くなったので明日楽しみにして下さい(笑)

夜ご飯は、中華料理を食べに行きました。ペルーの中華料理はペルー料理と中華料理を足した料理らしいのでどちらの味も面白かったし、美味しかったです。中華料理レストランで解散して、私はファンさんに送ってもらいました。今日もとっても楽しかったです(・v・)♡

明日はゆいまーるフェスティバル!皆で力を合わせて頑張りましょう! プエナスノーチェス!

・8月18日・荻野 なつれ

今日はみんなが待ちに待ったゆいまーるフェスティバルでした。朝からみんなで歌の練習をして、お昼ご飯にちょっとだけペルー料理を期待しながらも沖縄そばを食べ、午後少し休憩をして、本番に臨みました。そしてついに!!ゆいまーるフェスティバル!!沖縄民謡で踊る方や、日本語の曲に合わせて踊る子供、三線を引きながら歌う人など、さすが沖縄県人会だなと思いました。ペルーのダンスを踊っている人もいて、自分もなんだか踊りたくなりました。そしていよいよ!!海邦養秀グループの出番!!舞台裏で笑いながら出番を待っていました。三線片手にていんさぐぬ花をみんなと一緒にりおなのピアノに合わせて歌いました。そして、2曲目、島人の宝。島人の宝を歌って今日はじめて思ったんですが、歌詞が本当にいい歌詞だな〜と。言葉ではうまく伝えられないけど、沖縄の人、ペルーに移民して、ペルーに住んでいる県系人の

人も、みんなそれぞれ沖縄のいい所だったり、自分の中にある、自分だけが知っている沖縄のすてきな所を持っているんだろうな〜と。私自身も歌詞にあるように、沖縄の海のすばらしさをきくと誰よりも知っています。こんなことをペルーで考えることができてよかったです(^^)そして県系人のエイサーで締めをくくり、みんなでカチャーシーを踊りました。

ペルーは国境を越えてもみんなと一緒にカチャーシーができるほんとにすてきな国です。そして改めて、沖縄から遠く離れているペルーでも沖縄の伝統芸能や文化が受け継がれているし、本当に沖縄をはじめ、自らの故郷を大切にしている国だなと思いました。ちなみにいまま私の横でホストファミリーのシスターが日本や、沖縄の歌を歌っています(笑)

そして!!今日は!!2年ぶりにジュニアスタディツアー(沖縄県のプログラムで、沖縄で海外県系人子弟と沖縄の中高校生が1週間沖縄の歴史・文化をともに学び、交流を深めるプログラム)で出逢ったペルーの友達と会えました!!みんな相変わらず元気で笑顔が本当にすてきで、本当にすてきな1日になりました。1度できた友達は一生ものだと思身にしみて感じた1日でもありました。

いろいろと協力してくださった周りのみなさん、ありがとうございました。



ゆいまーるフェスタ

・8月19日・宮城 瑞恵

今日は朝の集合が早かったので5時過ぎに起きました。

まず最初に動物園へ行きました。平日で午前中のせい、人が少なくとても静かでした。この動物園は元々遺跡があったらしく岩がまだ沢山残っていました。なつれがとても楽しみにしていたアルパカに会いましたが、私達のもとへよっては来てくれず、意外と臭いがして驚きました(笑)。アルパカ以外にもクジャク、ペンギン、コンドル、キリンなどにあえたので良かったです!動物園で私はトイレに行きたくなり日本では無料なのに...と思いながらも50セントを払いました。

お昼はオーナーが日系人であるNORKY'Sでチキンを食べました。1人分のチキンが大きすぎて食べるのに苦労しました。チキンを美味しく頂いた後、外にでた時の事でした。気付

かずセメントが固まっていない所に足を乗せてしまい、私の足跡が綺麗に残ってしまったのです。工事している方に迷惑をかけて、申し訳ないと思いました。



Parque de las Leyendas 動物園

午後はリマの北部にある貧困地域に行きました。まずはLA FLORという学校でAMDA・JICAの方々が生徒にエイズについて講習をしているのを見学させていただきました。生徒達も真剣に聞いていました。親が子供にいろいろな事を丁寧にわかりやすく使用方法も教えてくれて私も勉強になったし、習って良かったなと思いました。このワークショップを日本にも取り入れるべきだと思います。今回の教え方以外にも握手で感染するときの気持ちが体験できるワークショップがあるみたいでAMDA・JICAの方々の工夫や感染してほしくないという強い願いが感じられました。リマの北部はホームステイしている場合とは違って町が全体的に汚れていました。植物は枯れてゴミもあちらこちらに捨ててあり、道路もきちんと整備されていませんでした。これは①組織制度の弱さ②社会政治の悪さ③汚職・腐敗が重なって格差ができるそうです。このことを知って、この問題を解決するのは難しく、時間がとてもかかると思いました。改めて日本は他の国と比べて貧困の差がなく住みやすい所だなと感じました。ともかさん、通訳で色々教えてくれてありがとうございました!

この後は老人ホームへお邪魔しておじいちゃん、おばあちゃんと少しだけ交流しました。みんな温かく迎えとても上手でした。もしもの時はこの老人ホームにお世話になろうかと思えます(笑)

夜はようこ、なつれ、さおりさん、さつきさんとバスの中で沖繩の基地問題について語り合った後、9時過ぎに帰宅しました。

夕食はペルー料理のサンコチャードというスープをいただきました!体も心もあたたかくなり幸せでした。

さつき鏡を見ると、私の肌がいつのまにかとても荒れていました。多分、寝不足+疲れがたまっているのだと思います。

皆さんもホストファミリーと一緒に過ごすのもいいですが、早く寝ましようね!

明日から1泊2日の小旅行楽しみましょう!

・8月20日・村松 燿子

今日はバスで移動しているとき1度パンクしました。

そしてピスコというお酒を作ってる工場に行き、お昼ご飯とミゲル・グスマさんに一家の歴史と移民のことについてお話を聞かせていただきました!!

工場見学をさせていただいた後に、日系の人たちが訪れる神社に行き、その後に移民の港に行きました。(^^)

ミゲルさんたちとお別れした後に、イカに向かいました。その途中でまたもや。パンクがおきて笑いしか出てきませんでした(´;ω;)笑



グスマ氏経営ピスコ工場

・8月21日・パウカル ルミ

朝6時に私たちの日が始まりました。

念願のナスカの地上絵に向けて朝ご飯は控えめ。(飛行機酔いに備えて。笑)抜群のコンディションで挑みました!!!

小型飛行機にみんなで乗り込んでスタート!天候にも恵まれ、パイロットさんの機内案内でハチドリや宇宙人の絵、猿、コンドルなど、どの絵もはっきりと綺麗に見えました。ですが、飛行機の揺れは予想以上に激しく、少し酔うメンバーもいました。地上絵の後は、ペルー料理を沢山頂き、お腹いっぱい幸せでした。

帰り道ではワカチナ(砂漠の中のオアシス)という町でチョコレートで出来たお菓子チョコテハを買いました。さまざまなハブニングが起こりながらも県人会の方々の支えで素敵な旅となりました。

明日も素敵な一日になりますよーに!!!



ナスカ市

・8月22日・川畑 智華

Voy a escribir sobre hoy. Perdon, estoy la casa de Miodori, así que digo en español, jajaja. Pero es mejor para mí, porque puedo practicar español, ¿no? Mañana otra vez escribiré en japonés. No te preocupes.

Bueno, hoy escuchabamos las historias de Tuyo Toyama (la abuela de Arturo) y Yukihiro Nakada. Ellos han vivido la era de no sabiamos, por eso podemos escuchar muchos cuentos de interesantes. Por ejemplo... la inmigración llamado, cuando guerra en Perú, después de guerra, la historia de amor de señora Tuyo... todos muy interesante y podemos aprender sobre el duele en el extranjero de okinawense. **Yo pienso que necesito estudiar sobre Okinawa y los pais de extranjeros, luego será buena persona para Okinawa y okinawense en otro lugar. Tenemos que pensar más sobre nuestro país ¿verdad?**

Y hoy yo comí la sopa de pollo, pollo con arroz y la sopa de pollo. ¡A mi me gusta pollo! jajajajajaja

Vale, hasta mañana. Y muchas gracias a señora Tuyo y señor Nakada. Dulce sueño a todos.



移住者の体験談

こんにちは、ともかです！

今日は、アルトゥーロのおばあちゃんである當山ツヨさんと仲田ユキヒロさんのお話をお伺いしました。私たちの知らない時代を過ごした彼らからは、とても興味深いお話を聞くことができました。

例えば、移民して来た当初の話、第二次世界大戦下のペルーでの処遇やツヨさんの旦那さんとの恋愛話……私たちは当時の沖縄の人たちが外国で受けた苦しみを学ぶことができましたし、すべてのお話が貴重なものでした。

私は、後々沖縄や海外のうちなーんちゅの為にももっと素晴らしい人になるには、沖縄や海外の国々のことを知ることが必要だと感じました。私たちは自分たちの国についてもっと考えるべきですね。

今日はチキンスープ、チキンライスを食べました！鳥肉だーいすきです！

最後に、ツヨさんと仲田さんありがとうございました。生の声が聞けるという貴重な体験ができました。

・8月23日・米城 沙織

午前中はMIYASATOに訪問をしました。ガラスを作っている会社でペルーでシェアNO1の会社だったので、工場内はとても大きな機械がたくさんありました。

しかし、最後の仕上げは人間の手作業で行っているところに、職人の魂を感じることが出来ました。

CASTAVERPEでの昼食は本当に本当に素敵でした。海がとても近く、食べ物もとても美味しすぎました。写真も思い出の一枚になりました。会長さんMuchas Gracias(^^)/

その後、インカマーケットで、ペルーの民芸品を買いました。ペルーの民芸品はカラフルで素敵でした!!

その後、MIRABASSに乗ってリマの旧市街地を観光しました。建物はスペインの統治時代からのバルコニーや大統領館などが残っていて、とてもきれいでした。

それで、イルミネーションと噴水との素敵なコラボレーションがある噴水公園に行きました。楽しすぎて、時がたつのが早かったです。



ミヤサト氏経営ガラス工場

・8月24日・島袋 りおな

今日の朝は県人会に集合でした。そして今日のフォルクローレという伝統的な踊りを教えてくれる先生が来るまで皆で卓球をしたりサッカーをしたりして待ちました。そしてロベルト・比嘉さんが来ました。

最初はValichaという踊りを踊りました。腰を振ったり、回ったりといういろいろ大変でした。

次の踊りはFestejoで、足をずっと爪先立ちしながら踊るのはむずかしかったけど、皆で星を作って中をくぐり抜けたりととても楽しかったです。最後に皆で踊りの衣装を着て、記念撮影しました。皆とてもよく似合っていました。そしてアレサンドラさん達が舞台上で太鼓をやっていました。とても上手でした。ようこさんも太鼓をしました。とても凄かったです。

その後、お昼ご飯を食べました。今日のメニューは中華料

理のバイキングでした。とっても美味しかったです。そして振り返りをして、明日の確認をして解散しました。明日はスポーツ大会とさよならパーティーです!さよならパーティーと聞くと少し悲しくなってしまう、もうすでに泣きそうです。



Valicha バリーチャ

・8月25日・荻野 なつれ

今日はまず県人会でひたすら卓球をしました。アルトゥーロさんに勝ちました(笑)。そして、フェステホの練習をしまして、さよならパーティーをしました。みんなの2週間で学んだことや思い出、ペルーの人に対する感謝の気持ちなどを聞いて、絶対泣かないとか思っていたのに少し涙腺が緩んでしまいました。本当にこの2週間たくさんの人のおかげでたくさんのことを学ぶことができました。言葉では言い表せないぐらいの感謝の気持ちでいっぱいです。これから私もペルーと沖縄の絆を深めていけるような人になりたいと思います。

フェステホのアンコールも上手いき、すてきな思い出となりました。



Festejo フェステホ

そして!!今日お家に私の親戚がやってきました~!!おじいちゃんの妹と、その子供です。遠く離れた異国の地でおじいちゃんと雰囲気似た妹さんとあえて本当によかったです。今日はほんとにいい1日となりました。

明日、飛行機に乗って沖縄に帰りますが、絶対にまたペルーのこの場所に戻ってきたいと思います。

・8月26日・宮城 瑞恵

みんなとお別れの日。最後はホストファミリーと過ごす時間でした。私は朝、普通に起きてから朝食のパンを食べました。そして部屋の掃除を丁寧にした後、昼食はおじいちゃんが経営しているレストランに行きました。

そこはチャイナタウンの中であって、レストランの名前はARAKAKIでした!(^^)ついてみるとお店はお客さんがいっぱいいて、入るのがやっとでした。そこで私はおかゆみたいなSOPA RACHIと揚げパンを食べました。おかゆは今までたべてきたなかで一番おいしかったです!

このレストランは1940年から始まっていて、おじいちゃんは2代目だそうです。70年もレストランを経営していて関心しました。

その後はチャイナタウンを散歩しました。平日なのに中国人ではなくペルー人がたくさんいて混雑具合は那覇にいるみたいな感じでした。

家に戻った後、荷物を持って日秘文化会館へ!そこで大型バスに乗り換えて空港へ向かいました。県人会皆さんも来てくれてとても嬉しかったです。

空港について出発するまで間はホストファミリーと一緒に過ごしました。

そういえば、空港でガボの誕生日をみんなで祝いましたね(笑)みんなで誕生日の歌を歌ったのが楽しかったです。

ホストファミリーとはアイスクリームを食べながら日本の話をしました!そしてとうとうお別れの時。

ずっと笑っていたけど、手紙を渡した時ぐらいからいろんな思いがこみ上げてきて泣いてしまいました。考えたら、本当にたくさんの人達と出会って交流する事ができました。県人会の方々にはたくさん迷惑もかけたし、遊んでもらったし、いろんな思い出がありました。このプログラムに参加することができて良かったです。私に関わってくれたすべての人に感謝します!



ナカマ ファミリー

主な活動について

①ラ・ユニオン学校

宮城 瑞恵

ラ・ユニオン学校はペルーのリマにある日本語の教育を取り入れている学校です。学校の教育制度は初等教育が6年間、中等教育が5年間、計11年間が義務教育です。中等教育は日本の中学、高校に当たるので高校はありません。義務教育ではありますが成績が悪いと進級できません。つまり、落第があります。

設立当時、この学校に在籍していたのは日系人がほとんどでした。しかし現在は、非日系人と日系人の生徒の割合が半分ずつです。正確に言うと、非日系人がやや多いです。昔と比べて非日系人の生徒が多い理由としては、日本語が好き、親か子が日本に興味があるなどがあげられます。また、真面目で優しい人が多い日系人が好きという理由で学校に入学する生徒もいるそうです。



ラ・ユニオン学校

日本語の教え方として、低学年は歌ったり踊ったりして、体を使いながら覚えていました。

休み時間は3回しかないけれど、15分・15分・25分に分けられおり、日本の学校の休み時間より長いです。昼食は弁当か食堂で食べます。学校内には売店があって、そこでお菓子や飲み物が買えます。

リマはほとんど雨が降らないので、バスケやバレーは外で行います。体育館は主にダンスや会議、集会をする時に利用します。年に1度体育祭があって、生徒達はチームに分かれてエイサーを踊るそうです。他にもリマにはラ・ユニオン学校以外に5つの日本学校があります。



ラ・ユニオン学校

②ペルー日本人移民史料館について

川畑智華

私達が沖縄県人会の次に多く訪れたのは、日本人移民を長年支え続けてきた日秘文化会館でした。日秘文化会館は、ペルーの日系人に日本に触れる機会を、という目的で1981年に建てられた建物で、現在でも多くの日系人・県系人が訪れ、自らのルーツを学び、折り紙教室などの企画に参加するなど、とても活気のある施設となっています。この会館の2階には、日秘文化会館が建てられた同じ年に開館し、2011年6月にはリニューアルされたばかりの「MUSEO DE LA INMIGRACION JAPONESA AL PERU」。日本語で「ペルー日本人移民史料館」があります。

まず史料館に入る前に出迎えてくれたのが、当時のペルーの代表と日本の外交大臣によって結ばれた日秘修好通商航海条約の資料です。1873年8月21日に結ばれたこの条約がきっかけで、多くの日本人が地球の真裏に位置する南米ペルーへ移民をすることになりました。更に今年はその条約から130年という1つの節目にあたる年ということで、この日秘文化会館でも多くの催しものなどが企画されていて、在ペルー日系人の方々はとても熱心に移民の歴史を理解し、大事にしていると感じました。また、史料館内の展示物や貴重な資料にはスペイン語だけではなく日本語の説明も併記されていて、日本人観光客の方々も多く見に来られているようでした。史料館は、1612年の史実上で初めての日本人渡秘者のミゲル・デ・シルバの歴史からはじまり、大正時代に発行されたバースポートや当時ペルーに持ち込まれた日本の生活用品など

が実物の展示、写真やパネルなどでわかりやすく展示されていました。また、移民初期の日本人がそれまでの奴隷制度の延長線上として扱われた辛い境遇について、頼母子講を利用したりして日系人が少しずつ豊かになっていった様子、戦争がはじまり迫害を受けて苦しんだ時期、そして現在に至るまでの移民の歴史が詳しく述べられていました。



移民史料館

の勲章や、彼の活躍を模したフィギュアなどが飾られています。特に大きな功績は、Huallaga地区でのテロ行為に対するミヤシロさんの活躍でした。このことで彼は勲章を授与されました。なぜ第二次世界大戦中は敵対関係にあった日系人でも組織の幹部になれたかという点、ペルーの多民族国家という要素が大きく関係しているようです。ペルーの国民は、外から来た新しい考えなどを柔軟に受け止めることができることでした。例え過去に敵であった日系人でも、その実直で勤勉なその人自身の本質を見て、ペルーの為になると思えばミヤシロさんのように公的機関のトップになることも可能だという部分に、ペルーという国の懐の広さを感じました。



移民史料館

また、企画ブースの所では、沖縄県系人で「日系人の英雄」とも言われるマルコ・ミヤシロ・アラシロさんの企画展が行われていました。彼は日系人にして、ペルーの警察組織のトップに登りつめた方です。その企画展では、彼の生涯について、警察組織に属し、数々の功績を残したことについて書かれ、また数えきれないくら

ここでは、日系人の移民の歴史や実態について、本からだけでは得ることのできない、生きた情報を得ることができます。是非ペルーを訪れた際には、訪ねてほしい場所のひとつです。

最後に、こちらの史料館をわかりやすい解説で案内してくださりました、ガナハさんに感謝申し上げます。

③ ゆいまーるFestival

パウカル ルミ

8月18日3時から6時まで第3回ゆいまーるフェスティバルが沖縄ペルー県人会で開催されました。入場料は10ソール、日本円で約350円です。目的は、ジュニアスタディツアーに参加した若者たちが先頭となり、学んだことを伝える、沖縄とペルー両方の文化交流、またいつも支えてくれている県人会や関係者の方々への感謝を伝える場でもあります。

(「ジュニアスタディツアー」とは、海外の沖縄県系人子弟を招待し、県内の児童生徒とともに沖縄の歴史、文化、自然などの体験学習を通して、沖縄との絆を深めることにより、海外沖縄県系人社会の発展と将来のウチナーネットワークを担う人材の育成に貢献することを目的とした沖縄県が主催する事業。)



ゆいまーるフェスタ

フェスティバルには、屋台(やきとり、わんたん、アンティークーチョコ)、くじ引き、オリジナルTシャツの販売などがありました。会場の準備、ポスター作り、チケットの販売もでも彼らが行います。第一部のプログラムでは、県費留学生だったメンバーによる「かぎやで風」で始まり、県人会の女の子達が着物を着て踊る「涙そうそう」、「かりゆし」という三線グループによる「ひやみかちぶし」、とても速いテンポの曲ですが、綺麗に弾きこなしていました。ペルーの伝統芸能では、Marinera(男女がペアとなりスカーフを持って踊る)、Festejo(ペルー河岸沿いの音楽で、チャンチャという町で生まれたアフリカを原点とする踊り。これは私たち海邦メンバーも一緒に練習して踊りました。)も披露されました。第二部のプ

ロケムでは初めに私たち海邦メンバーで「島人の宝」と「ていんさぐぬ花」を沖縄の景色をスライドで流し、三線やピアノを取り入れながら歌いました。県人会のメンバーによる手作りの獅子舞を使った演舞もありました。この日のために、学校や仕事の時間を削って準備に取り組んでいました。県人会や家族のサポートもとても感じられ、お客さんも沢山居て、素敵なフェスティバルでした。



ゆいまーるフェスタ

④カラバイーヨ地区、AMDA沖縄の活動

村松 燿子

AMDAとは特定非営利活動法人アムダといいます。お互いに助け合う精神に基づき、災害や紛争発生時、医療・保健衛生分野を中心に人道支援活動を実施しています。世界30カ国に支部があります。

ペルー共和国は貧富の差が激しく、特にカラバイーヨ地区は貧困層の地区です。保健・公衆衛生の問題に直面しており、知識の不足による栄養不足や若年層の出産問題などサポートがほとんどない状況です。妊娠中の女性や母親の約20%は若年層で、地域の保健所によると彼女らの3分の1は栄養や性に関する問題をかかえています。生命までも脅かすことになるため、早急な対応をする必要があります。地域の保健に対応する能力を向上させるために、COSACA(カラバイーヨ地区保健委員会)を設置して、様々な支援プロジェクトに取り組んでいます。



AMDA活動現場視察

今回私たちはAMUDAボランティアの人々が行っているHIV感染症の授業を見学する事ができました。11歳～12歳の生徒に対してHIV感染者の写真やコンドームの使い方を詳しく教えていて、低学年からリアルティな授業をしているのを見て私は驚きを隠せなくて、

私が受けた授業とはずいぶん違うと思います。

このように、地域にとって何が必要であるかを最優先に考え、地域をよくするために教育活動に力をそそいでいます。低学年から大人を対象にHIV感染症だけではなく、母子保健、栄養、水と衛生、結核を含む保健教育を合計2684人に対して教育を行うことができました。また若年層を対象に研修を行い、訓練を受けた若者たちが学校や大学で教育活動を実施しています。このような教育活動を通して国の発展のために、自らに与えられた機会を最大限に発揮し今後の状況の改善が期待されています。

⑤カニエテ「日本移民初上陸の地」

米城 沙織

1889年昭和32年に横浜港を出発し、790人の男子を乗せた『佐倉丸』は約2か月かけて、リマにあるカヤオ港に到着しました。その中の296名がカニエテ耕地に入植しました。

カニエテにおいて、移民者たちの生活は良いと言えるものではなく、苦勞したことに加え、マラリアが流行したが医療制度が整っていなかったために、最初の1年の間に143名の犠牲者が出ることになってしまいました。1903年、551名が第2航海として移民してきました。その中に、浄土真宗の僧侶上野寿庵が加わっていたことから、1908年に、当時カニエテで一番多く日本移民が住んでいたサンタ・バルバラ砂糖耕地に移民有志と共に寺を建設しました。建設当初、外装は日本風であったとされています。しかし、現在では外装は建設当時とは異なるものの、寺は『慈恩寺』として存続しています。現在でも、親類がいない人や、出稼ぎで出て行く人の位牌を安置しています。カニエテの重要な行事は、彼岸とお盆の際には、日系人たちが集まり、2つの移民の墓にお祈りをし『慈恩寺』に行くことです。この行事はペルー北部にあるパラモンガの二つだけで行っている行事であり、リマ中心地では行っていません。



カニエテ市



日本移民100周年記念碑

加えて、日本人に対する初めての教育の地もカニエテです。上記した、僧侶の上野寿庵が、寺を造ると同時に子どもたちに教育を受けさせる機会をつくろうという取り組みから、1908年サンタ・バルバラ小学校を建設しました。この小学校がペルー初の日本人学校であると言われています。

カニエテには、日本人会館があり、現在、沖縄県出身の県人ミゲル城間(グスクマ)さんが会長を務めています。加えて、沖縄県人会の活動としては運動会が行われます。最初は、沖縄県を三つの地域に分けていたが、現在では各市町村ごとに分かれて運動会を行います。

現在カニエテには移民1世はいません。しかし、カニエテに日本人が初上陸した海岸には、モニュメントが建てられており、今もなお、子孫たちに脈々と移民の歴史を伝えている地域と言えます。

⑥ 移住者の体験談1世、2世

島袋りおな



移住者の体験談

移住者の体験談1世、2世のお話を聞くプログラムでは貴重な体験を沢山聞くことが出来ました。移民1世の當山津代さん(102歳)は、呼び寄せ移民として1930年(昭和5年)ペルーへ。その頃の大統領が倒れてバタバタしている時期だったので上陸できるかできないか毎日状況が変わりました。上陸するまで2~3週間かかり、11月

17日にやっと上陸できたそうです。夫が雑貨商店を持っていて、食い逃げも多かったといいます。旦那さんとは小学校6年生の時に出会いをし、21歳で初めて子供を産み7男1女の8人兄弟を生んだそうです。言葉が分からなかったため、沢山の差別がありました。子供の教育は日本語にしようと思い、戦前でペルーの学校に行かず人はいなかったそうです。

少しでもお金があれば日本へ子供を勉強させるために行かせたそうです。言葉を覚えるために毎日お店に立って約半年でようやく買うのと売るのが出来るようになりました。戦争中の大きな影響はなかったが、やはりお店の食い逃げが多かったといいます。戦争中は暴動があったがペルー人の家主さんが守ってくれたため店は無事だったそうです。隣の店は沢山暴動を受けて、1週間ほど怖くて道を歩けなかったそうです。暴動の2週間後地震があり、ペルーの若者が日系人に対して暴動を起こしたから神様からの天罰が下ったんだと年配の人たちに沢山言われていたといいます。大変な経験でしたが、今は安定した生活をすごしています。これからの目標はアルトゥーロさんの結婚希望だそうです。

仲田幸弘さん(73歳)は1935年ペルーリマ市出身で8人兄弟の3番目。仲田さんは帰来2世です。戦前、ペルーで生まれながら幼少のころ教育を受けるために沖縄へ渡り、沖縄戦を体験した後ペルーに戻った人のことを帰来2世といいます。その頃日系人はリマ市周辺に住んでいて、リマ市を中心として皆集まっていたそうです。仲田さんが1940年(5歳の頃)中国人やペルー人が日本人への反発で暴動が始まりました。暴動があったため、日本へ帰ることとなりました。仲田さんの父のパン屋さんが全部略奪されたそうです。その時は隣の家に住んでいたイタリア人がかくまってくれたそうです。その後、戦争が始まる前までには立ち直ったがすぐに戦争が始まり、資本などもすべて没収されてしまいました。伊是名村で中学まで勉強していて高校は首里高校だったそうです。その後は親戚の会社のオキコで4年間働きました。アメリカで働いて儲けようとアメリカに行く前にペルーに行きましたが、仲田さんの母が日本から帰って来る前にペルーで



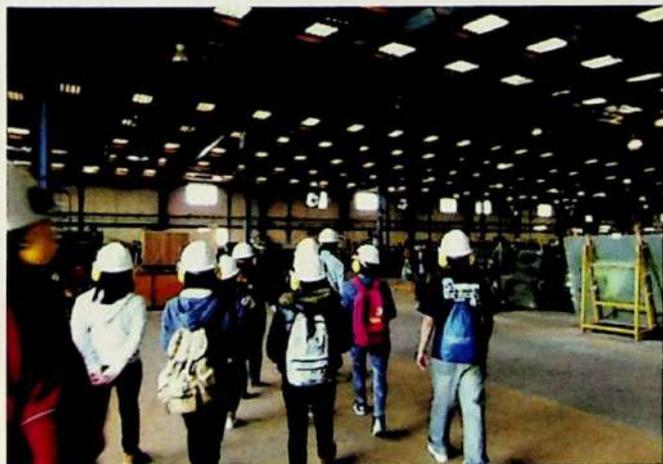
移住者の体験談

儲けることが出来たという話を聞いて、アメリカに行かずそのままペルーで働いたそうです。2年後に8年間続いた軍事革命が起こりました。日系人はペルーの人からとても信頼されていました。フジモリさんが当選したのもそのためだそうです。フジモリさんの時代から貿易が活発になり、大型スーパーが出来たため、商店などを経営していた日系人が苦勞しました。仲田さんが苦勞したこともやはり言葉の壁だそうです。これからの目標はハーモニカのコンサートをする事だそうです。

⑦ミヤサト氏のガラス工場

荻野 なつれ

8月23日金曜日、ミヤサト氏の会社に行きました。ミヤサト氏の会社はガラス工場です。そのガラス工場では、家や建物などのガラスをはじめ、車用のガラス、窓枠などに使うアルミサッシの3種類を造っているそうです。工場は1984年からやっていて、今現在は約400人程の人が工場に働いています。ミヤサト氏の会社ではブラジル、チリ、メキシコ、アメリカ、中国から、ガラスを輸入し、加工してメキシコ、チリ、パナマ、コロンビアなどに輸出しているそうです。ミヤサト氏の祖父は1924年にペルーに移民し、初めはサウキビ畑をやっていたそうです。そしてその後ガラス工場の原点とも言える、小さなガラス店を開いたそうです。そして、ミヤサト氏のガラス工場は今現在チリに支店が出るほど売り上げを伸ばしています。



ミヤサト氏経営ガラス工場

社長の甥っ子さんからお話を聞いた後、ヘッドフォン付きのヘルメットをかぶり、工場見学に行きました。ものすごく大きな音がするのでヘッドフォンをつけるそうです。工場では、ガラスが機械によって切られていく様子や、手作業でガラスに穴を開ける作業など、沢山の人々によって1つのものが出来上がるまでの過程を見ることが出来ました。また、車など

に使われているガラスは強化ガラスといって、プラスチックをガラス2枚でサンドウィッチのように挟み、約650度のオーブンで焼くことによって作られる、割れにくいガラスを造っているところも見学することが出来ました。また、工場の中にはガラスの強化実験をするところもありました。私たちが2、3人乗っても大丈夫なガラス、3、4mの高さから球を落としても割れないガラスなどとても丈夫ですが、日系人だなと思いました。

ミヤサト氏の会社のように日系人の方が移民した異国の地でその地の人々から信頼される会社ってすごいなと改めて思いました。



ミヤサト氏経営ガラス工場

ホームステイ感想



ペルーに行って 感じたこと

コザ高校2年 宮城 瑞恵

私は夏休みの2週間、海邦養秀ネットワーク事業でペルーにホームステイをしてきました。この事業で私は日系人の方々と交流を深めたり、移民の歴史を学んだり、ペルーの伝統的な踊りを踊ったりして、様々な体験をしてきました。

ペルーへ行く前の自分は、沖縄に生まれて育ったので沖縄の事は知っているつもりでした。しかし、ペルーに行ってみて、ゆいまーるフェスティバルで沖縄民謡を踊る方、三線を弾きながら歌う方を見て、沖縄にいるような感じがしました。三線を弾けなくて、方言も話せない私よりもペルー日系人の方がウチナンチュのように感じ、視野を広げたいのなら、まずは自分の住んでいる沖縄・日本の文化や歴史を知ることが重要だと考えさせられました。また、英語の大切さを実感する事ができました。スペイン語を十分に話せない私は、自分の気持ちを伝える為に英語を使いました。今まで外国人と話す機会が無く、英語の必要性を感じられませんでした。しかしこの体験で、英語の学ぶ事の意味を理解し、人と人をつなぐ言葉だと知ることができました。

日本とペルーを比較してみると、ペルーの方が日本より貧富の差が大きかったです。ホームステイ期間中に、リマの北部に行きました。そこは、町が全体的に汚れていました。植物は枯れてゴミもあちらこちらに捨ててあり、道路もきちんと整備されていませんでした。原因は、政府の組織制度の弱さ・社会政治の悪さ・汚職や腐敗が重なって格差ができるからだそうです。私はこの問題を解決することはできません。しかし、このような事があるのをみんなに伝えることはできます。どの国でも抱える問題があって、それを良くしていく為に頑張っている人がいるという事を知ってほしいと思いました。

私はこのプログラムで、ペルーの生活や文化、現地の方々との交流を体験・経験することができました。ペルーの良い面だけではなく、問題になっている事も知ることができ、沖縄との違いや共通点も見つけられました。基地問題や雇用問題を抱えていても、改めて沖縄が暮らしやすい場所だと外国に行き行って感じる事ができました。新しい発見やトラブルがたくさんあり、刺激的で忘れる事ができないホームステイを送ることができました。

これからは、ペルーで体験したことや学んだことを沖縄で活かせるようにしたいです。沖縄の文化や歴史をもっと知り、スペイン語を勉強してまたペルーへ行きたいです。将来は、沖縄の誇りを持って世界で活躍するウチナンチュになりたいです。



ホームステイ プログラムに参加して

陽明高校1年 島袋 りおな



今回私がこのプログラムを通して感じたことは現地の沖縄県人会の方は本当に沖縄の事が大好きで今の日本や沖縄にとっても関心があるんだなと感じました。携帯の着信音が島人の宝だったり、いつでもどこでも三味線を弾いたり、車の中のBGMが沖縄の歌手の歌だったり、今の日本の領土問題に詳しいという事など、私たちが沖縄にいる時より沖縄を感じることが出来ました。そして移民でペルーにきた日系人の活躍も知ることが出来ました。ペルーでシェアNO1のガラス工場や、ピスコ工場を立ち上げたり、日系人初のペルー警察庁長官として、テロリストを逮捕したりと、異国の地でこんなにも県系人の方々が活躍しているという事をもっと沖縄の人に伝えたいなと思いました。

楽しかったことは観光バスでリマ市やリマ市の旧市街地を回ったことと噴水公園に行ったことです。西洋風で昔から残っているがあつてとてもきれいだなと思いました。噴水公園では普段あまり噴水を見る機会がないので、あのダイナミックなショーを見て腰が抜けました。皆で噴水の中に入ったりして、少し濡れて寒かったけど、とても良い思い出です。

他にもLA FLOR学校訪問ではペルーの貧困地域の現状も知ることが出来ました。この学校では、性感染症の予防とエイズ予防の授業を行っていました。この学校がある貧困地域は危険で何があるか分からないので早いうちからこのような授業を行うそうです。日本とは違って避妊道具の実物を見せたり、性感染症に感染している状態を見せたりと衝撃的でした。この学校があるリマ市の北部は私達がホームステイしているリマ市中部とは全く違う環境という面でも衝撃的でした。街が全体的に汚れており、ごみが道に散らばっていて、道路の設備もままならなかったです。これは①組織制度の低さ ②社会政治の悪さ ③汚職・腐敗が重なって格差が出来るそうです。私はまずこの現状をペルー国民全員に知ってもらう事で何か国民の意識が変わるのではないかと思います。

そして移民1世と2世のお話を聞くプログラムでは、1世の当山津代さんは飲食店を経営していましたが、食い逃げがとても多かったそうです。最初の頃は言葉も通じなかったのでもっと不便したという事と、言葉の意味も分からなかった

ので沢山文句を言われたそうです。2世の仲田幸弘さんはペルーのリマ市で生まれ、5歳の頃日本に行ったそうです。そして中学校の頃まで沖縄にいたそうです。辛かったことはやはり言葉の壁だそうです。普段聞くことのできない沢山の貴重なお話を沢山聞くことが出来ました。



最後に私は今回このプログラムに参加してとても良かったと思いました。ここには書ききれないくらい沢山の思い出と経験を得ることが出来ました。次回行く時は私も、もっと沖縄を伝えられるようになるという事と、スペイン語と方言も勉強してたくさんの方々と交流したいです。そして将来は私も世界で活躍するウチナンチュの一人になりたいです。今回一緒に参加したメンバー、引率者、ホームステイ先の家族、県人会の皆さん、私と関わってくれた沢山の皆さん、本当にありがとうございました!

ペルーを訪問して

泊高校1年 村松 燿子



2週間という短い間ペルー県人会の方々に沢山のおもてなしと楽しい交流、ペルーの文化、沖縄に移民してきたことを教えていただきました。私にとって初めての海外で、飛行機に長時間乗ることをとても楽しみにしていました。日本の反対側に行ける期待と、尾てい骨の痛さで眠るのがとても大変でした。リマ空港に到着した時、飛行機の到着時間が遅れていたにもかかわらず、ペルー県人会の方々は待っていてくれて、私たちを歓迎してくれたことに、とても嬉しく思いました。

ペルー滞在中に、1番驚いたことは同じ国なのに貧富の差が激しいということです。

首都リマと、次に訪問したカラバイーヨとは、大きな違いがありました。リマは比較的町並みも綺麗で、ゴミを拾う人や掃除をする人がいます。家も立派で、大型スーパーもあり食料も豊富でした。沖縄の町と同じくらい綺麗な印象がしました。

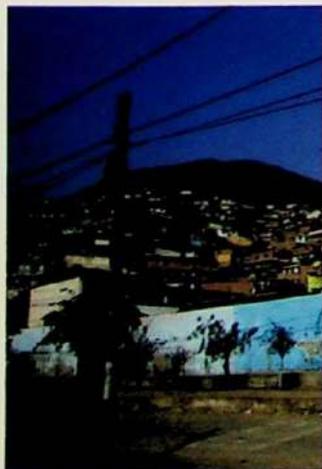
カラバイーヨという町に訪問した時、バスの窓のカーテンを開けるとリマとは全く違う風景が目に飛び込んで来ました。コンクリートではなく、ぐだぐだの土の道が続き、手作りの質素な家が山の方に向かって建っていました。山の上に向かって行くにつれて、生活のレベルも低くなっていくと聞きました。道路にはゴミが落ちていて、犬がゴミ袋に顔を突っ込んでいる光景、異臭を放っているにもかかわらず、ゴミを拾おうとしない人々。私たち沖縄では、ポイ捨てをしないこと、ゴミの持ち帰り、ゴミを拾うこと、これらはごく当たり前のマナー

です。なぜ、カラバイーヨでは、こんなにも通りにゴミがおちているのか不思議でした。私たちの考え方は異なる価値観や文化があるのだらうと感じました。リマとカラバイーヨ、同じ国にいるのだから、彼らの生活の向上のために、積極的にボランティア活動をしていきながら町並みから変えたら、観光客も増え、生活もより豊かになるのではと思いました。

もう一つ印象に残っていることは、カラバイーヨの学校で授業を見学をしたことです。HIV感染症の授業を見学しました。私たちが見学させていただいた生徒たちはおそらく11歳～12歳の男の子と女の子でした。HIV感染症にならないための授業は、沖縄で私たちが教えてもらった授業よりとてもリアリティーがありました。沖縄はHIV感染者が全国3位と多いので、沖縄でももっとリアリティーに富んだ授業をやった方がいいと思いました。この学校で、一人の女の子に話かけられたのですが、英語が通じず、少し残念でした。



私は実は、現地の人々ともっと交流をしたかったのですが、できなかったのが残念です。カラバイーヨは治安が悪く、スリが多いので、常に警戒していなければならない状況でした。鞆も前に抱えるように持ったり、カメラや携帯も見えないように持ち歩くようにしていました。貧しいから治安も悪いのだと聞きました。日本の治安の良さを改めて感じました。この町を訪れて、いろいろな事を考えさせられました。





感想

向陽高校2年 荻野 なつれ

不安な気持ちを抱えペルーのリマ空港に着いた時、大勢のホストファミリーと県人会の方に出迎えられて、ペルーという国はこんなにも温かい人がいる国なんだと思ったことを今でも覚えています。そして自分たちの地元を紹介したり、伝えたりすると、すぐに「私も私も!!」と声をかけてくれたり、本当に自分の地元の沖縄だったり地域を大事に思ってくれているんだと思いました。また、今現在もエイサーや獅子舞、琉舞といった伝統芸能をはじめ、ウンケー、ウーケイなどのお盆だったり、仏壇といった沖縄独特の文化であったり、習慣を大切にしている、自分の故郷にとっても誇りを持っている人の多い国だと私は思います。また、県人会の青年会の人たちが獅子舞の練習をしたり発表などをしたあとで、みんなで自分たちの獅子舞にお礼を言っている姿を見て、沖縄県民としてとてもありがたく思ったし、感動しました。しかしその反面、今回私たちが訪れたカラバイヨという地域は街中にゴミが落ちていたり、トタン屋根やベニヤ板などで造られたギリギリのお家など、私たちがホームステイした街の外見とは全く違って、私自身とても衝撃を受けました。また、AMDAなどの機関による性教育や公衆衛生などの指導は、将来アフリカなどの発展途上で仕事がしたいと考えている私には、これから学ぶべきものだったり考えさせられることは沢山あると改めて思わせてくれたし、日本でもこんな風にすればいいのになと思うことも沢山ありました。

また、今回の研修ではペルーに住む私の親戚にも会うことが出来ました。私の曾祖父母がペルーに移民し私が生まれ育った沖縄とは全く異なった地で築き上げられた親戚同士、うちなーんちゅ同士の絆を自ら感じる事が出来ました。また、私の祖父の妹家族に会った際には、目が祖父に似ている祖父の妹さんと話が出来、本当に感動しました。でも私は全くスペイン語が話せないし、英語も片言なので、曾祖父母がペルーに移民してきた時の話も少ししか聞くことが出来ず、とても悔しかったです。次回ペルーに行くときは、もっとスペイン語を話せるようになっていきたいです。そして、県系2世の方のお話でも言っていた通り、これからも沖縄とペルーで遠く離れているけど、うちなーんちゅ同士の思いだったり、絆

は強くなっていくと思います。そして、今回の研修で私は「ペルーの『家族』に会いに行こう!!」というタイトル通りの事が出来ました。



最後に、今回素敵な人たちと素敵な国に行く機会をくれた周りのみなさん、沢山迷惑をかけているのにいつも笑顔で接してくれたこの研修に関わってくれた沢山の方々、ホストファミリーのみなさん、支えてくれたみなさん、本当にありがとうございました。絶対ペルーのあの場所に戻ってきます。

海邦養秀ネットワーク事業 の感想

琉球大学3年 米城 沙織



私は、10年前ペルーから西原町に研修に来ていた方と交流し、その時に頂いた髪飾りにペルーの伝統衣装を着た女の子が付いていた事から、ペルーの文化に興味を持ちはじめ、その髪飾りを見るたびに、いつか必ずペルーへ行きたいと思っていた。10年越しの願いが叶い、今回ペルーの地を踏めたことに感慨深いものを感じたことを覚えている。

私が、今回の海邦養秀ネットワーク事業で立てた目標は2つ

1. 移民の話を聞く事
2. 西原町の町人会の方々に会う事

私は以前に、大学の授業で移民について勉強する機会があり、移民の方々の生活や移民した当時の話、2・3世の方の話や思いを聞きたいと思っていた事から、今回の事業では、出会った人に出来るだけ話を聞くことを心掛けた。そして、話を聞いている中でとても印象的だった事は、どの世代の方も沖縄の事を、第2の故郷の様に思っているという事である。沖縄を強く思っているからこそ、太鼓やエイサー、三線を上手に弾きこなすことが出来るのだと思った。加えて、沖縄とペルーは地球の反対に位置するけれども、この二つは海で繋がっている。



そしてその事をいつも思っているという話をしてくれる方が多かった事に加え、成功を収めても先代への感謝の気持ちを忘れないという事を話してくれた事は印象深かった。

実際に日本人の移民がペルーに初上陸した場所である

「カニエテ」の海岸を訪れ、海を見た時には、いつも何気なく見ている海から考えさせられるものがあり、海岸に建っている移民のモニュメントを見た時には、こみ上げてくるものがあった。

ペルーでの最後の夕食会では、西原町の町人会の方々が、私の為に歓迎会を開いてくれ、国境を越え、地元西原の話に花を咲かせることが出来、縁を感じた。

今回、海邦養秀ネットワーク事業全体を通し感じたことは、ウチナンチュが持っている助け合いの心、異郷の地でも負けることのない強い力、そしてペルーの地では毎日のように沖縄の風が吹いていたという事である。加えて、本では学ぶことのない個人・家族の歴史から見た移民について勉強することが出来たことは、私にとってかけがえのない思い出である。

そして最後に、毎日私達の為に、様々なプログラムを考えてくださった会長をはじめ県人会の方々、イシキファミリー・大城嶺井ファミリーの2家族と一緒に過ごしたホームステイでの時間は、わたしにとっての一生の宝物であり、感謝の気持ちでいっぱいである。

短期間ではあったものの別れの時には、前から知っている大きな家族の様な気がして、最後のゲートに入るまで手を振ってくれる姿に熱いものが込み上げ、その時まさに沖縄の言葉の「イチャリバチョーデー」「一度出逢ったならば皆兄弟」の言葉の意味を実感した。

この海邦養秀ネットワークで知り合ったみなさんとの縁を大切にしたいと思う。そして、私が体験したことを皆に伝えることが私達参加者の使命でもあると同時に、ペルーと沖縄の懸け橋になるように努力していきたいと思う。



海邦養秀ネットワーク構築 事業に参加して～PERU～

沖縄キリスト教学院大学4年 パウカル ルミ

8月13日～28日の2週間、研修でペルーへ行きました。長い移動時間を経て、ペルーに到着したときの感動と光景は、一生忘れません！深夜だったにもかかわらず、「めんそーれ！」と書かれた横断幕を持った県人会の方々、ご家族の方々、メディアの方々が待っていてくれました。それを見た瞬間、ドバっと熱いものがこみあげてきて、ペルーの方々の温かい愛情を感じました。

ペルーでの初日は県人会でWELCOME PARTYを行いました。会場について真っ先に目に飛び込んだのは、満開の桜と壁に描かれた各市町村の絵でした。1世2世のお年寄りの方々が元気よくラジオ体操をしていて、一緒に参加させていただき、PARTYでは各自の「伝えたい沖縄」について発表を行い、昼食には沖縄そばを食べ、県人会の方々との交流を楽しみました。その日、私はペルーに居るのに沖縄にいる気分を味わいました。

翌日は、LA UNION学校の見学に行きました。多くの子供たちが、各自のレベルにあった日本語教育を受けています。昔は生徒のうちほとんどが日系人の子でしたが、現在では半分以上がペルー人の子供たちです。その理由は日系人の真面目な所、勤勉、誠実に惹かれて、我が子に同じ教育を受けさせたいと考えたからだそうです。日秘文化会館では、そこに来たことで移民についての歴史が展示物によって分かりやすく理解でき、当時の日系人が体験した苦労、戦争によって受けた迫害なども学びました。つらいことが沢山でしたが、それ以上に日系人の団結力、現地の人々との支えあいがとても感じられました。



他にも、日本移民発祥の地であるカニエテ、日系企業、高原会長がプレゼントしてくれたナスカの地上絵旅行、アルバカが沢山居た動物園、市内観光、貧困地域のカラパイーヨ、日系人が作った老後施設、1世の方々との語り場などと、貴重な体験が沢山出来ました。中でも、私はゆいまーるFestivalが一番印象に残りました。県人会の若者たちが主体となっていくFestivalで、沖縄の伝統芸能がしっかりと受け継がれているのが見えた場でした。ペルーと沖縄の両方の文化を受け継いだ若者たちは、とてもいきいきとしていました。若者たちは積極的に、沖縄の文化を失わないように県人会の活動に参加しています。私はFestivalに参加して、自分が沖縄に暮らしているながら、三線が弾けない、方言が話せないことを恥ずかしく感じました。Festivalを通して、次回県人会を訪れる際には方言で会話し、三線のサークルに参加する、そして沖縄の文化を守り受け継いでいくという目標ができました。



帰国の日、涙が沢山出ました。県人会の方々、家族の方々は最後まで私たちのことをとても思いやって家族のように接してくれました。本当の娘のように大切にしてくれた前園さん一家には、感謝の気持ちでいっぱいです。ペルーで経験したこと、学んだことを忘れずに、これから沖縄県の方々にペルーで頑張るうちなんちゅの姿を伝えていきたいと思えます。ペルーに居るうちなんちゅ、世界中のうちなんちゅをととても尊敬し誇りに思います。ありがとうございました。

ペルーでの交流を 終えて

琉球大学4年 川畑 智華



飛行機を二度乗り継いで、合計フライト時間は約20時間。飛行機という現代の偉大な発明品を利用してこんなに遠く離れた地に、私たちのおじやおばよりもっと上の年代のうちなーんちゅ達は、ひと月以上船に揺られ到着しました。言葉も違う、文化だって食事だって、何もかもが違う外国に、何のコミュニケーション手段も持たずに渡った日系人の方々は、最初はとても苦労をしたと聞きました。契約と違う労働条件・過酷な生活に嫌気が差し都市に移り住み、同じ日本出身者を頼って少しずつ大きくなっていった日系人の輪。その小さな努力の積み重ねが、現在の在ペルー日系人協会や、在ペルー沖縄県人会のような大きな組織を形成するに至ったのだと思います。私たちがこうして海邦養秀ネットワーク構築事業に参加することができ、県系人や日系人の方々の沢山の気遣いや愛情に見守られ無事研修を終えることができたのも、移民された方々のひたむきな頑張り・そして子孫の方々の自分たちのルーツを大事にする心、沖縄を愛する心があったからこそだと思います。

私たちは約12日もの間、沖縄からすると地球の真裏側に位置するペルーで滞在しました。勿論言語はスペイン語で、トイレ事情や食文化だって違うペルーでしたが、一番触れることが多かったのは「沖縄らしさ」でした。ホームステイ先のママは車で沖縄の民謡や涙そうそうを聞き、長女は日本語やうちなーぐちを勉強していて、お家にはヒメカンもありました。県人会では、沖縄と変わらないかめーかめー攻撃を受け、ゆいまーるフェスティバルでは参加者のみなさんとかちやーしーも踊りました。そして行く先々で、自分のルーツである沖縄を愛する人々と交流することが出来ました。

旅の最中、病院に緊急で行くことになってしまったりとハプニングもありましたが、そこでも県人会の方々が病院でのサポートをしてくださったり、私の体調を考えた食事を出してくださったりと、とても言葉だけでは感謝してもきれないほどの親切な対応をしていただきました。旅の後半は、だんだんと近づいてくる帰国の日をもっと延びないものかと本当に祈る気持ちでした。空港でペルーの家族やお世話になった

県人会の方々と最後のお別れをしましたが、とても寂しくて仕方がありませんでした。

私は、ペルーでの旅を終えて、目標が二つ増えました。ひとつ、お金を稼いでペルーに再び行くという事。ふたつ、沖縄のことをもっと勉強して、他県の人や外国人の方々に私たちの素晴らしい故郷の魅力を伝えるということです。距離も、年月さえ経ても愛されている沖縄には、ここで生活しているだけだと見過ごしてしまいがちな長所がたくさんあるのだと改めて気づくことが出来ました。私には、これからの沖縄を担う若い世代のひとりとして、やらないといけない多くの課題が見えてきました。その自覚を持って、ペルーでお世話になった方々が来た時に喜んでもらえるような、沖縄を引っ張る人材として成長しようと決めました。この事業に参加することができて、本当によかったです。ありがとうございました。



参加者アンケート

(派遣前)

Q1. ペルーのウチナンチュ家庭にホームステイすることについて、みなさんのイメージや、期待していることがあれば書いて下さい。

- ・家族の一員としてできるよう馴染むことができ、ペルーの歴史、文化を知りたいです。
- ・初めてのことばかりだと思いますが、一生懸命がんばりますのでよろしくお願いします。ペルー料理を食べてみたいです。
- ・皆と仲良くわきあいあいと、楽しく会話したいです。
- ・ペルーのウチナンチュの方々が作る沖縄料理やペルー料理が食べたい。
- ・マチュピチュなど歴史のあるところに行くこと。
- ・移民の話を直接聞くこと。
- ・受け継がれている沖縄文化を見たい。
- ・家(日常生活)を見てみたい。
- ・帰るころには大泣きするくらい仲良くなりたい。
- ・スペイン語でペルーの文化、習慣だけど、沖縄のことを大切に思っている日系人に期待します。沢山笑顔が溢れているお家だったらいいな。
- ・沖縄についてきっと沢山聞かれるだろうし、彼らも自分の出生地のことを(現在の)知りたいたらうと思います。私もたくさん勉強して、ホームステイ先の日系人の方々と満足できる交流をしたいです。
- ・ペルーの人たちと仲良くなりたい。
- ・文化や生活を体験したい。
- ・ペルーで活躍しているウチナンチュに会いたい。
- ・日本語でも少し会話ができる(イメージ)
- ・現地の学校や街の見学

Q2. 今回のツアーで不安に感じていることがあれば、素直に書いて下さい。

- ・高山病。(4名)
- ・高山病やデモなどがないか気になる。
- ・自分が伝えたいことを相手が理解できるかが少し不安です。
- ・移動距離が長いので、飛行機が少し心配です(体調面ではなく、たいくつしないか)
- ・治安。
- ・発券時のお金の支払いがいつになるのか。(12日が給料日の為・・・)
- ・ペルーで体調が悪くならないか心配です。

Q3. ペルーについて知りたいことを書いて下さい。

- ・マチュピチュの文化、沖縄など日本の文化をどれくらい知っているか知りたい。
- ・日系人だけではなく、他の国の人たちもたくさんいるのでしょうか?
- ・移民について、ペルーの文化、日系人の方々が日本をどう思っているか
- ・日系人の方々のネットワーク。築き上げたものを見たい。
- ・現地の人々の生活習慣、貧富の差。
- ・文化、歴史はもちろんのこと、ポップカルチャーや料理について学びたいと考えています。
- ・スペイン語、ペルーの歴史、ペルーの生活様式。
- ・都市や地域の特色
- ・移民

参加者アンケート (派遣後)

Q1. 滞在中、海外のウチナンチュの歴史や生活、ウチナーネットワークを学ぶことができましたか？ (施設見学を通して・ホームステイを通して・県人会との交流を通して・他)

・もちろんできました。流石、日系人の70%が県系人ということもあり、沖縄の料理や習慣が沢山残っているのを感じました。また、1世や2世の方々の話を聞くことで、遠く離れた異国の地で頑張るうちなーんちゅの姿を今一度見ることが出来ました。

・交流する時間もたっぷりあったので良かったです。

・移民についての苦労話や成功時の話を聞くことが出来、県人の活躍を学ぶことができる施設見学をたくさんしたので、とても楽しかったです。

・県人会の方々は、私たちより深く沖縄を愛しているんだな！と思いました。日秘文化会館でHUZIMORI大統領のテロ事件など初めて知る事が出来る事柄がありました。

・移民1世、2世の方達の貴重なお話を聞くことが出来て、本当にいい経験になりました。また、異国の言葉が通じない国で一から工場を作ったり、言葉を学んだりしている話だったり経験を聞いてよかったです。

・施設見学や日系人の話を聞いて学ぶことができた。

・移民1世・2世のお話、カニエテでのお話が特に印象に残っている。

Q2. 派遣先の地域の方々との交流はできましたか？

・県人会・JICA・ホームステイ・日本語クラスのある学校、基本対話形式・時々見学(日系人の活躍を知る事が出来た、ホームステイ先のファミリーとお喋り&写真撮影、カニエテ神社(寺?)。)

・ホームステイを通して(ゆいまーるフェスティバル、みんなのおしゃべりの時間)。

・移民についてのインタビュー(印象に残っている交流: 県人会にいる県系の方々との交流、西原町の方との食事、ホームステイ先の家族、さよならパーティのダンスの練習)。

・たくさん、バレーなどお喋り(おば様のたのもし(もあい)に参加できた!、ミゲルさん(2世)のお話、MIYASATOさんと工場見学、ゆいまーるフェスティバル)。

・県人会でのゆいまーるフェスティバル、ホストファミリーと踊ったこと、イカ州、自らの親戚との交流。

・たくさん、遊びながら(ゆいまーるフェスティバル、なみえとジャニーズについてのトーク、ガブ(県人会スタッフ)と卓球、買い物)。

・会話・見学等で(フォルクローレ、ゆいまーるフェスティバル、AMDA、ホームステイ)。

Q3. あなたが期待したことはこのホームステイツアーでどのくらい達成されましたか？

テーマ:

達成感: / 100% (←達成感を数字で表してください)

・うちなーんちゅと沢山話して、ペルーでの生活や文化を体感してくる! 120%

・家族との絆を大切に。100%

・移民について1世・2世の方から話を聞く、100%

・ペルー移民1世、2世の話、交流を楽しみ学ぶ。85%

・自分とつながりのある海外ウチナンチュと会う。友達を新しいにっばいつくる。120%

・県人会の方々と親睦を深めて、生活や文化の体験・移民の歴史について深く知る。70%

・充実した2週間に。80% (残り20%⇒スペイン語でコミュニケーションが出来なかった)

Q4. 出発前に不安に思っていたこと、行ってみても不安が大きくなったり、問題にながったりしましたか?

いいえ 6、無回答 1

Q5. 事前オリエンテーションは役に立ちましたか? (複数回答可)

語学研修	5
保護者説明会	4
沖縄を伝える学習	2
沖縄移民の歴史	6
参加者同志のコミュニケーション	7
派遣地からの具体的な情報(留学生より)	4
その他(ペルーのトイレの話や習慣・文化について)	1

Q6. その他に事前に学んでいたほうがよかったと思うことはありますか?

- ・語学研修の時間をもう少し取っていても良かったと思います。それと、1世2世の方への質問を事前に煮詰めていてもよかったかな。
- ・お金の使い方(2)
- ・今回訪問する先の会社の概要
- ・ペルーには移民の人々がいて、戦後沢山の暴動を受けたまでは学んでいたけど、どんな感じの暴動だったのか、調べてから直接聞いて質問したかったです。
- ・移民の歴史とかだけを多く学んで行ったから、ペルー自体の歴史とか文化が余りよく分らなかった。博物館に行って初めて知る事ばかりで、もっと事前に学んでおけばよかったと思いました。
- ・スペイン語を勉強しておけばよかった。簡単な表現くらい出来たらよかったです。

Q7. 研修後、この経験を活かして何をしますか? 具体的に書いて下さい。

- ・スペイン語力の更なる上達を目指し、またこの研修で学んだ格差や文化の違いに対する視点を活かした職に就きたいです。
- ・方言・サンシンを学びたいと思います。もっと沖縄の文化を大切に、受け継がなければいけないと感じました。
- ・沖縄に研修で来ている研修生との交流(県費留学生、西原町研修生)
- ・移民についての勉強
- ・学校で発表できる時間を作ってもらい、AMDAの活動・カラバイヨのことをみんなに教えたいと思います。
- ・今回の研修で少し貧困な地域に行き、JICAなどの支援を受けて活動しているAMDAというグループの活動を見ました。将来、私は発展途上国で貧しい生活をしている人の支援をしたいと思っているので、今回見たような公衆衛生や性教育の授業はとても参考になりました。
- ・語学の勉強をしようと思う。方言が使えるようになりたい。
- ・学校の友達、親、沢山の日に日系人の活躍を知ってもらいたい。

Q8. その他感想、要望・意見などありましたら、書いて下さい。

- ・ホームステイをする事により、ペルー事情をたくさん知る事ができた。毎日がとても濃いスケジュールで、とても楽しかったです。また必ず来たいと思いました。県人会の方々、ホームステイの家族に感謝の気持ちでいっぱいです。ペルーへ入国、出国の際には感謝の気持ちを述べるセレモニーをした方が良いと思います。(出迎えてくれた方、見送りに着てくれた方に対して)
- ・夜はホストファミリーと少ししか話聞けなかったのも、夕ご飯は一緒に食べたかったです。
- ・本当にいい体験ができました。ステキな人たちにめぐり合わせてくれた私の周りのステキなみなさん、本当にありがとうございました。
- ・このプログラムに参加できて本当に良かったです。横山さん、アルトゥーロさん、さつきさんの世話になりました。ありがとうございました。

編集後記

沖縄県知事公室交流推進課主任
沖縄県知事公室交流推進課国際交流員
特定非営利活動法人沖縄N G Oセンター

横山 貴彦
当山樋口アルトゥーロ
金城 さつき

平成25年度の「海邦養秀ネットワーク構築事業」では、ペルーに沖縄の学生7名をホームステイ派遣しました。今回のホームステイでは、移民史料館訪問、県系人職場見学、戦前移民の体験講話など、ウチナーンチュ移民の歴史や文化について学ぶプログラムが非常に充実していました。また、JICA及びAMD Aの協力のもと、県系人の現地医療支援活動見学をこの事業で初めてスケジュールに取り入れました。おかげさまで、移民の歴史やペルーの文化だけでなく、国際貢献についても触れる内容となり、多岐にわたるウチナーネットワーク研修が実施できたと実感しています。

その成果として、9月28日に行った報告会では、ホストファミリーや県人会への深い感謝の言葉とこれからの沖縄の国際交流を担う決意が、参加者から次々と語られる姿を見届けることが出来ました。彼等がこの決意を今後も持ち続けていくことを願い、未来のウチナーネットワークの担い手として大きな期待を寄せているところです。

今回派遣したメンバーの中には、ペルーに移住した家族や親戚を持つ者がいました。沖縄から遠く離れたペルーで親戚に出会う感動体験を通じて自らのルーツを再確認し、「将来沖縄とペルーをつなぐ役目を担いたい。」と語る様子をとっても頼もしく感じました。

また、引率者のひとり、アルトゥーロはペルー出身の県系3世で、彼にはリマで元気に暮らす102歳になる泡瀬出身の祖母・当山津代さんがおり、祖父の当山全成さんはかつてペルー沖縄県人会長を務めていました。

時は流れ2013年、アルトゥーロが県の引率者として沖縄の若い学生をペルーに派遣し、津代さんが参加者に貴重な体験談を語るという巡り合わせは、ペルーのウチナーンチュ移民が持つ長い歴史と広がり象徴する感動的な瞬間でした。こうした出来事は、多くのウチナーンチュをペルーに送

り出してきた移民県・沖縄ならではのエピソードだと思います。

今回のホームステイが初めての海外だというメンバーもいました。また、ペルーに行った経験のある参加者はひとりもいませんでした。しかし、ホストファミリーや県人会のみなさんが温かく受け入れてくれたおかげで、参加者はあっという間にペルーでの暮らしに馴染んでいきました。

ゆいまーるフェスティバルでは、参加者と同世代のペルーの若いウチナーンチュが、沖縄やペルーの伝統芸能を見事に披露する姿を見て驚き、感動するとともに、大きな刺激を受けている様子が見て取れました。また、ウチナーンチュ子弟留学生やジュニアスタディツアーの参加経験者が中心となって活躍していたことは、県交流事業の成果を垣間見ることができ、喜ばしい出来事でした。

このペルー訪問では、ペルーという国が持つ魅力を肌で感じると同時に、普段自分たちが暮らしている「沖縄」を改めて見つめ直す格好の機会になったと考えています。

沖縄に戻ってからも、参加者はホストファミリーやペルーの友人とメールやFBを通じて活発にやり取りしていると聞いています。自分と「家族」や「友人」がつながることや「家族」同士がつながることの積み重ねが広がって、最終的に「沖縄」と「ペルー」をつなぐことに貢献できると、私たちは信じています。ぜひ、参加者にはペルーの「家族」や「友人」とのつながりをこれからも大事にし、続けていってほしいと思います。

最後に、このホームステイに御協力をいただいたペルー沖縄県人会及びホストファミリーの皆様、事業の実施に御支援いただいた関係者の皆様には、心から感謝を申し上げます。皆様のおかげで参加者全員が、国境を越えたもうひとつの「家族」にペルーで出会うことができました。

